


かながわ
女性の不安・困りごと相談室

家庭や生活上の悩み一人で抱え込まず
相談してみませんか



シャレ好きで知られる芥川賞作家の荻野アンナさん。パートナーの看病とご両親の介護、さらにご自身の闘病。絶体絶命かという状況も、持ち前のポジティブ思考で乗り越え、何度でも立ち上がる。好きなお酒は「目の前にある酒」と品良くほほ笑む荻野さんにお話を伺った。

「縦浜」じゃなく「横浜」

港の見える丘公園までよく散歩します。バラの季節は素晴らしいですね。足を延ばして横浜橋商店街まで歩くこともあります。この辺りは歩ける範囲でおしゃれな街並みと庶民的なアーケード街が両方体験できるのがいいですね。そんなところはパリに似ていると思います。

ずいぶん前になりますが、毎年春の2日間、素人が集まって大道芝居を野毛でやっています。10年続きましたよ。私は大道芸で、評論家の平岡正明さんと一緒に自分の本のたたき売り。最後は200円だ、100円だとたたき売っちゃうので、売れば売れるほど損をするというおバカな企画。ちょうどそこに当時の高秀市長が通りかかったので「今買ったら市長さんのサイン付きだよー」なんて口からでまかせを言って。でも「それじゃあ」って本当にサインしてくださり、それがきっかけで高秀さんも大道芝居に参加することになり、それは次の中田市長にも引き継がれました。

参加者の職業はさまざま。作家、画家、シャンソン歌手、建設作業員、博物館の学芸員、タクシー運転手、獣医…。いろいろな出会いがありました。横浜は縦の人間関係じゃなく、横のつながりができやすい街。「縦浜」じゃなく「横浜」です。

仕事は楽しむ心意気で

雑誌『横濱』で、「商店街は面白い」という連載に長く携わり、市内の商店街を巡りました。取材の時は「買い者」という肩書の名刺と大きい袋を持ち、気になったものは片っ端から買って。ですからいただく原稿料は地元で還元、です。

印象深いのは六角橋の商店街。古い陶器屋さんのご主人が「けつ曲がり(頑固者)」で。このご主人のようなこだわりを持つ人との出会いが何より楽しみでした。こちらで購

入した九谷焼のお茶碗は今も愛用しています。取材の撮影は写真家の森日出夫さん。お顔が広く、取材中に「あら、森さん」なんてお声がよくかかりました。

取材の時はテンションを上げて相手の懐に飛び込みます。長く大学教授もしていましたが、実はね、学生だけではなく教授でも登校拒否になるんですよ。だからどんな仕事でもプレッシャーをはね返して「さあ来い」と自分が楽しめるまで気持ちを持っていく。それを大切にしてきました。

ホラから出たまこと

母は画家でした。小さいころは自分も画家になるのだと思っていて、家の前や庭のコンクリートにいつも「ろう石」で絵を描いて遊んでいました。ところが人間って、中学生くらいで自分が本当に目指すものが見えてくるんですね。絵を描くよりも、本を読む時間がだんだん長くなって。同じく作家の森下典子さんと同級生。まさかクラスから2人も作家になるなんて、当時は思いもしませんでしたけれど。私の専門であるフランスの作家ラブレールの作品に出会ったのも15歳の時でした。

大学卒業後、都合4年間のパリ留学。4年だけに、勉強に余念がなかった(笑)。中上健次氏についての書評が世に出たことがきっかけで、小説を書くようになりました。実は大学に入った時、周囲に「30歳までに芥川賞を取る」なんて言っていたみたいで。当時小説なんて書いたこともなかったのに、口がうまかった父の血筋で、私も時々ホラを吹きます。(笑)

今も小さいノートを持ち歩いて、これはと思う出会いや出来事をメモしています。それが自分の中で発酵して、執筆中に文学の神さまにかわいがられる瞬間があれば幸い。

金原亭馬生師匠に弟子入りし、落語も学びました。落語は寿限無のような長い言葉遊びがあるかと思えば、簡潔に済ませるところは



作家
慶應義塾大学名誉教授
荻野 アンナさん
Ogino Anna

1956年、横浜市生まれ。慶應義塾大学卒業後、フランス政府給費留学生としてパリ第4大学(ソルボンヌ)に留学し、ラブレールを研究。1991年『背負い水』(現、文春文庫)で芥川賞、2001年『ホラ吹きアンリの冒険』(文藝春秋)で読売文学賞、2008年『蟹と彼と私』(集英社)で伊藤整文学賞を受賞。2007年フランス教育功労章シュヴァリエ叙勲。母は画家の江見絹子。

「豚グッズのコレクションが趣味です。豚だけに『トントン拍子』」

簡潔。メリハリですね。ラブレールと共通するところ。そのリズムを体に刻み込み、文章にもキレの良さを出したいですね。落語って、人間観察も非常に深いんですよ。

人生後半のメインイベントは

パートナーが食道がんを患い、40代からの20年は彼の看病と年老いた両親の介護の日々でした。彼と父を見送り、介護が必要な母を抱え、10年前には私自身も大腸がん。仕事と介護と自分の病気。かなりサバイバルな状況でした。考えた末、母も私と一緒に入院させていただきと頼み込み、受け入れていただい。絶体絶命と思っても解決策はあるものですね。「この橋渡るな」と言われて真ん中を通る一休さんみたいに。

そんな時、ことわざを作って研究室の壁に貼っていました。例えば「起こったことは

みんないい事」。起こったこととは、大惨事や自然災害ではなく、日常のちょっとした不都合など。電車を逃してしまった、でもホームにいるイケメンを鑑賞できるとか。マイナスな思いも、考え方一つで逆転できるはずだと。ほかにも「無理が通るゾ道理ひっこめ」「79転80起」など。何回転んでも最終的に起き上がればいいんです。

「孤独は贅沢」とはハリウッドスター、リリアン・ギッシュの言葉です。私がそう感じるのは「一人居酒屋」。晩酌は家でコツコツやっていますが、お店にも行きます。居酒屋で一人で飲む時間は豊かですね。

母の遺した作品が200点以上あり、山手の自宅を改築して美術館にするのが人生後半のメインイベントです。隈研吾さんの建築事務所が引き受けてくださいました。まだ時間はかかりますが、一步一步、ですね。

初回半額 1本買うと、もう1本もらえる

オレンジシャンプー オーガニック
100ml×2本 2,596円
1,298円 (税込)
送料無料でお試しサンプル付 10ml×2包

安心! 定期コースではありません

TEL 0120-633-833 申込番号 **ヨコよみOR7**
通話無料 (受付:平日9時~19時/土日祝休)

FAX 0120-646-555 下記の必要事項を記入して、送信してください。

●初めてお買上方(一帯一回限り) 定期コースではありません **コンビニ・郵便局 支払い** 10日以内返品OK
FAX/はがきの申込:①オレンジ100ml②氏名(フリガナ)③〒住所(ご自宅)④電話番号(ご自宅)
⑤生年月日⑥ヨコよみOR7係を明記し、お申込みください。●お届け:約10日。●お支払:コンビニ、郵便局で到着後10日以内●返品は未開封に限り到着後10日以内(送料お客様負担)
※お客様の個人情報(商品の発送や情報提供以外)には利用いたしません。 **エスコス** 〒164-0012 東京都中野区本町3-6-8

洗うだけで根元ふんわりボリューム感

「根元がへたる」「ハリ、コシがない」。そんな髪の悩みに応えるオレンジシャンプーは、頭皮サロンでも使われても使われても戻ります。

お客様の声

1日中髪がふんわり。娘と一緒に使っています。 Y・T様 40代
洗った翌朝、髪にボリュームが出て、1日中ふんわり。娘と一緒に使っています。オレンジの香りもいいですね。

美容院で髪を褒められて嬉しくなりました。 S・S様 80代
細い髪がフワツとするのが気に入っています。いつもの美容室で髪にコンがある褒められ、嬉しくなりました。

発売20年のロングセラー
美容院で褒められる髪に!

洗う 毛穴を塞ぐ
リンスは不要

いたわる 天然オレンジ配合

整える 毛根ケアでハリ、ツヤ

細い髪専用

合成香料・鉱物油・パラベン無添加